

アカムツ延縄に掛かった謎の生物について

海洋生産技術担当 和田隆史

Key word ;ゾウクラゲ, 紀伊水道外域, 椿泊, 軟体動物, 延縄, *Carinaria cristata*

平成 24 年 5 月 28 日に阿南市椿泊漁協に全身がほぼ透明で、薄い貝殻のような物体を身につけた、細長い謎の生物が水揚げされました。この生物は蒲生田岬南方の紀伊水道外域水深約 200m の地点に仕掛けられたアカムツ延縄に掛かってきたもので、経験豊富なベテラン漁業者も漁協職員も誰も見たことのない珍しい生物でした。「新種ではないか？」と水産研究所に連絡があり、翌 29 日に冷蔵保管されたものを受け取りました。そのとき漁協職員は、当初は生きており、頭と思われる部位の一部がもっと違った形でタコの漏斗のような動きをしていたこと、もう少し体積があり重たかったこと、貝殻のようなものや流氷の天使と呼ばれる”クリオネ”のようなヒレがあるので近い仲間ではないか、と話されていました。

研究所に持ち帰り測定すると、全長約 560mm、体重 184g、幅は一番太い箇所約 60mm ほどで、体はぶよぶよでクラゲに似た感じでした。頭と思われる部分には無数の牙を備えた口のような器官があり、胴体真ん中の一方にヒレのようなものと、反対側に貝殻とそれに包まれた内臓のような器官が確認できました(写真 1~3)。

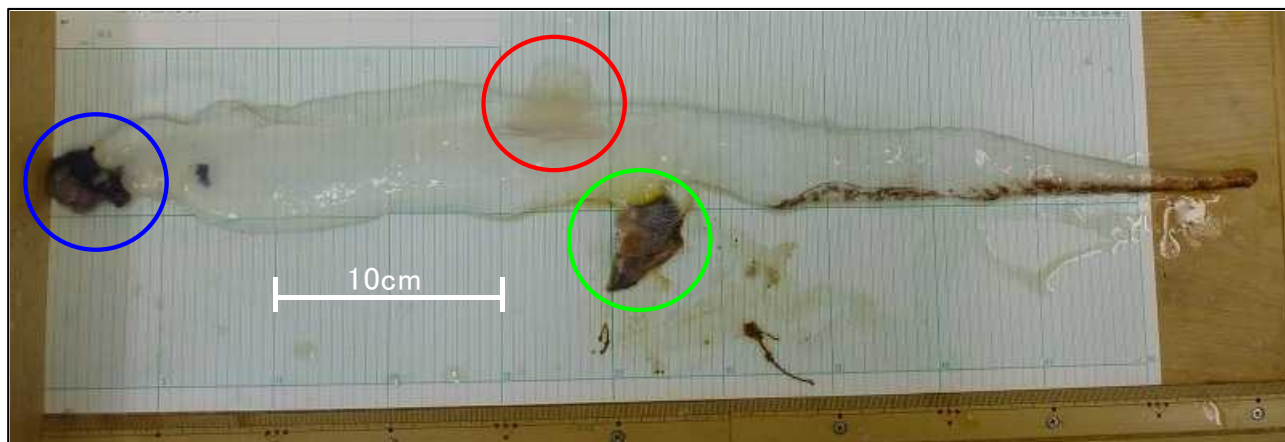


写真 1. 平成 24 年 5 月 28 日に椿泊漁協所属木下明氏のアカムツ延縄により捕獲された謎の生物の全体写真。青丸が口の部分、赤丸がヒレの部分、緑丸が貝殻の部分(注:貝殻が外れ誤って 180 度逆に付けたため、貝殻の先端が頭部を向いている)。

日本海洋プランクトン図鑑第 3 版(保育社, 1984)に基づき、①体は透明でクラゲのようである、②三角形の帽子のような薄い貝殻がある、③クリオネに似たヒレが 1 つある、④長さが約 50cm ある、という特徴から、ゾウクラゲ *Carinaria cristata* と同定しました。ゾウクラゲは巻き貝の仲間で、クリオネ(標準和名:ハダカカメガイ)に比較的近い仲間だということも判明しました。ゾウクラゲという名称

は、今回受け取った個体では特徴が分かりにくいのですが、ゾウの鼻に似た突起が頭部から伸び、透明でクラゲに似ている様子に由来するようです。ゾウクラゲは太平洋の温帯域に広く分布し、クラゲのように浮遊生活を送るプランクトンで、サルパなどの大型のプランクトンを好んで食べているようです。徳島県周辺の海域にも普通に生息していると思われませんが、深海に多いのか、沿岸域での網漁業でも目にするのではなく、今回はたまたま沖合に仕掛けた延縄漁具に掛かってきたため、人目についたものと思われま



写真 2. 口と思われる器官(写真 1 の青丸の部分)。細い牙のような歯がたくさんある。



写真 3. 体側にある貝殻部分(写真 1 の緑丸の部分)。薄くて非常にもろい。